

## 第2章 佐賀市の概況と環境の現状

# 1 佐賀市の環境の状況と課題

## 1. 佐賀市の概況

### (1) 地理的特性

本市は南北に長く、九州経済の中心である福岡市や九州各地を結ぶ高速自動車道が交差する鳥栖ジャンクションに近接しており、九州佐賀国際空港を通じた首都圏や東アジアなどの国外とのアクセスが確保されていること等、広域流通を拡大する恵まれた条件を整えています。現在は、県内外地域の連携強化・交流促進に向けた有明海沿岸道路（東西軸）及び佐賀唐津道路（南北軸）の整備が進められています。

北部は脊振・天山山系に囲まれた山林地帯となっており、湖や森林、溪流などみどり豊かな自然の風景が広がっています。また、南部は有明海に面しており、多くの野鳥や干潟に生息する珍しい生きものなどを観察することができます。

北部の山間地からは平野を下り有明海に注ぐ嘉瀬川、また南東部には筑後川が流れており、中南部の平野部は、農業用水路（クリーク）が縦横に巡る肥沃な佐賀平野が形成されています。

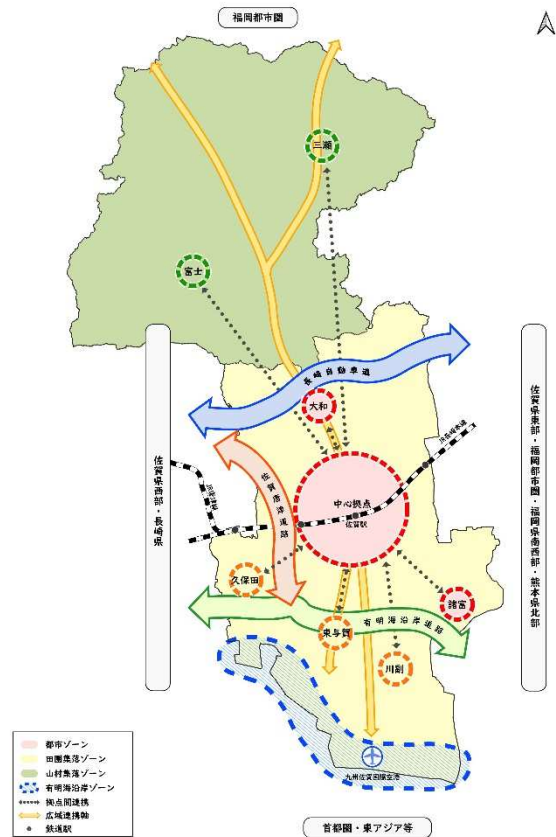


### (2) 土地利用

本市の 2022 年（令和4年）の土地利用の状況は、田が最も多く 40.5%、次いで、山林 34.8%、宅地 14.7%の順で多くなっています。農地（田・畑）、山林の合計面積が市面積の約 80%を占めています。

山間部から海岸地域まで、幅広い自然環境を持つ本市では、第3次佐賀市総合計画において4つのゾーンに分けて、将来の土地利用を計画しています。都市機能を集約したコンパクトなまちを形成しつつ、各拠点を公共交通機関等のネットワークで結び、地域の特性をいかした暮らしやすいまちを目指します。

- 都市ゾーン：市の中心部、諸富町・大和町の市街地
- 田園集落ゾーン：旧佐賀市・諸富町・大和町の一部、川副町、東与賀町、久保田町
- 山村集落ゾーン：大和町の一部、富士町、三瀬村
- 有明海沿岸ゾーン：川副町・東与賀町・久保田町の一部



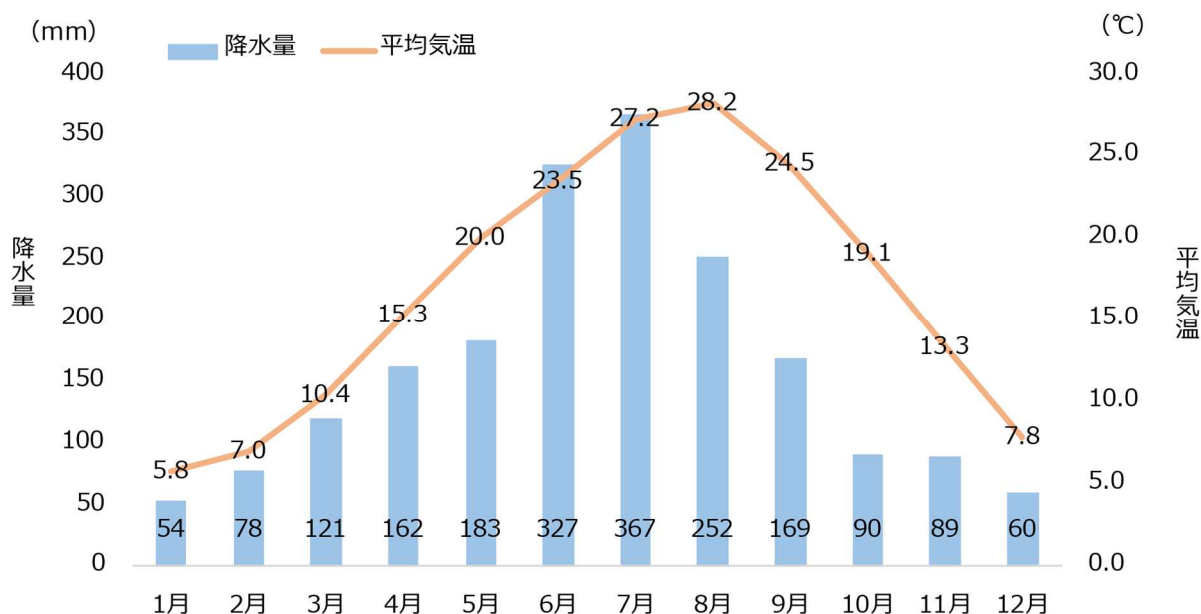
資料：第3次佐賀市総合計画

### (3) 気候

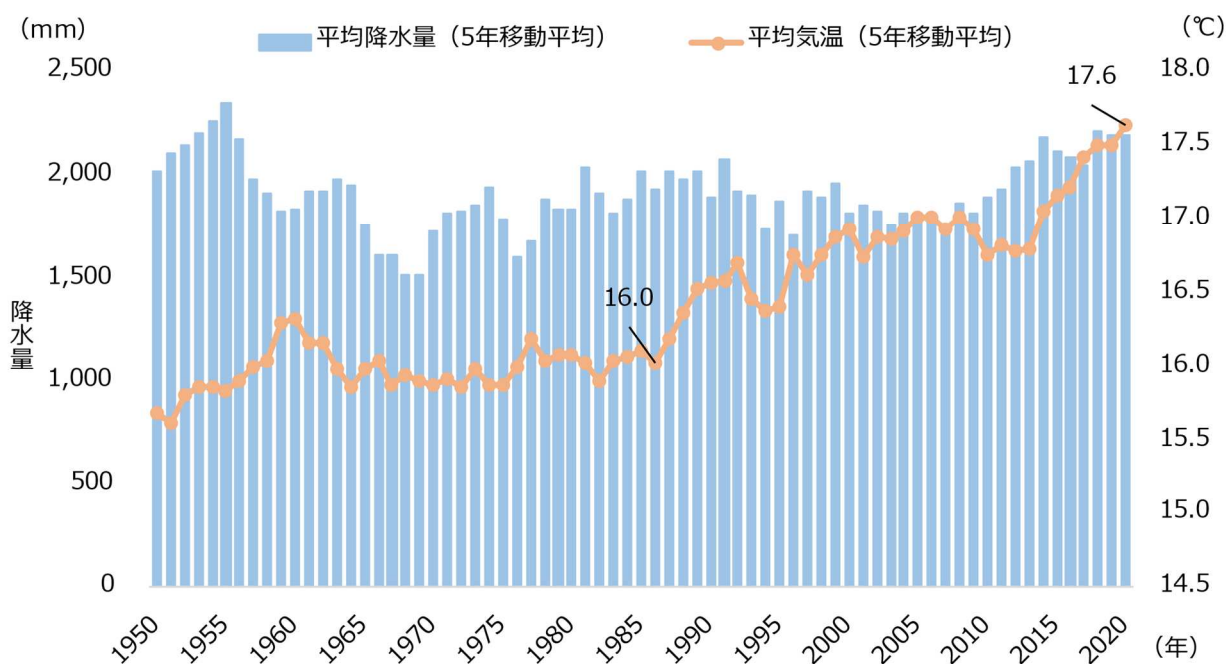
本市の直近 30 年間(1991 年～2020 年)の平均気温は、16.9℃、年間降水量は 1,951 mm/年であり、梅雨の6月から7月の降水量が多くなっています。

1987 年(昭和 62 年)以降、年間平均気温は上昇傾向を示しており、1986 年(昭和 61 年)と比較すると 2020 年(令和 2 年)は 1.6℃上昇しています。また、近年の年間平均降水量は増加傾向にあります。

■ 佐賀気象観測所における平均気温及び降水量の月別平年値



■ 佐賀気象観測所における平均気温（5年移動平均）と年間降水量（5年移動平均）の推移

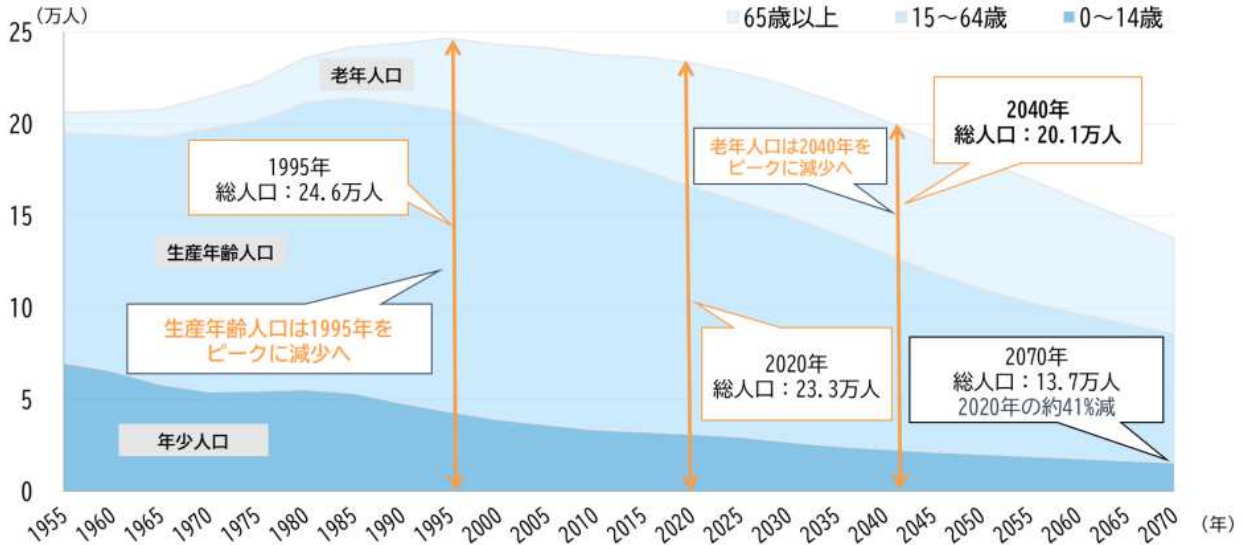


資料：気象庁 WEB ページ 各種データ・資料 (<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>)

#### (4) 人口

本市の人口は、1995年(平成7年)にピークを迎え、それ以降は緩やかに減少しています。山間地域を中心に過疎化の課題も抱えています。2040年(令和22年)には20.1万人に減少することが予測されています。

■ 年齢区分別人口の推移(佐賀市)



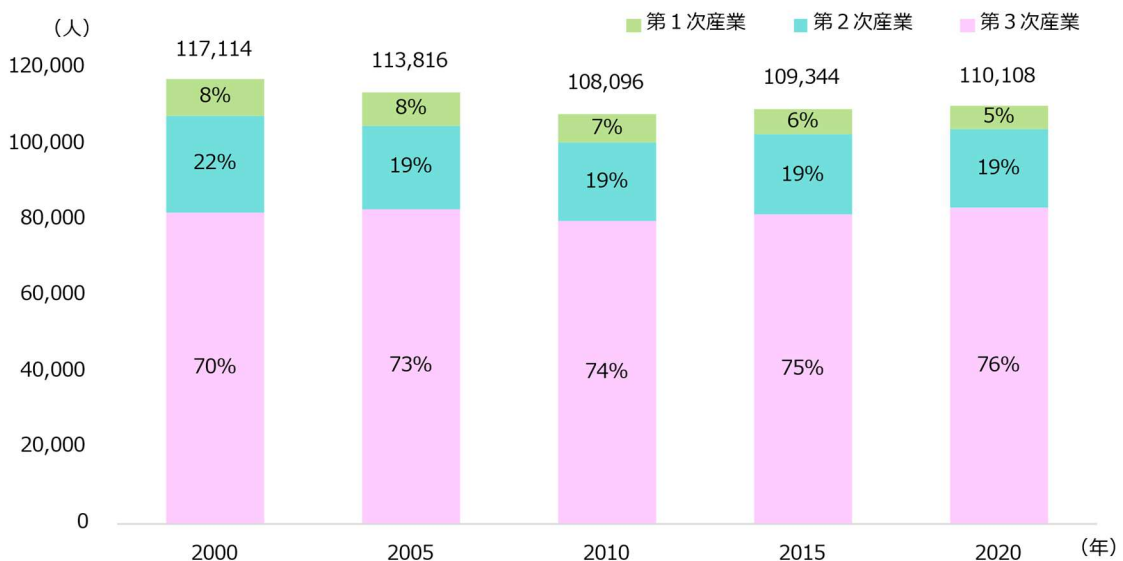
資料：第3次佐賀市総合計画

#### (5) 産業

就業人口は、2000年(平成12年)から緩やかな減少傾向が続いており、2020年(令和2年)には、人口減少、少子高齢化の影響を受けて11.01万人に減少しています。

産業の構成は、サービス業や卸売・小売業を中心とする第3次産業が最も高い割合を占めています。今後も第1次、第2次産業の割合が減少し、第3次産業へのシフトが一層進行すると予測されています。

■ 就業人口の推移(佐賀市)



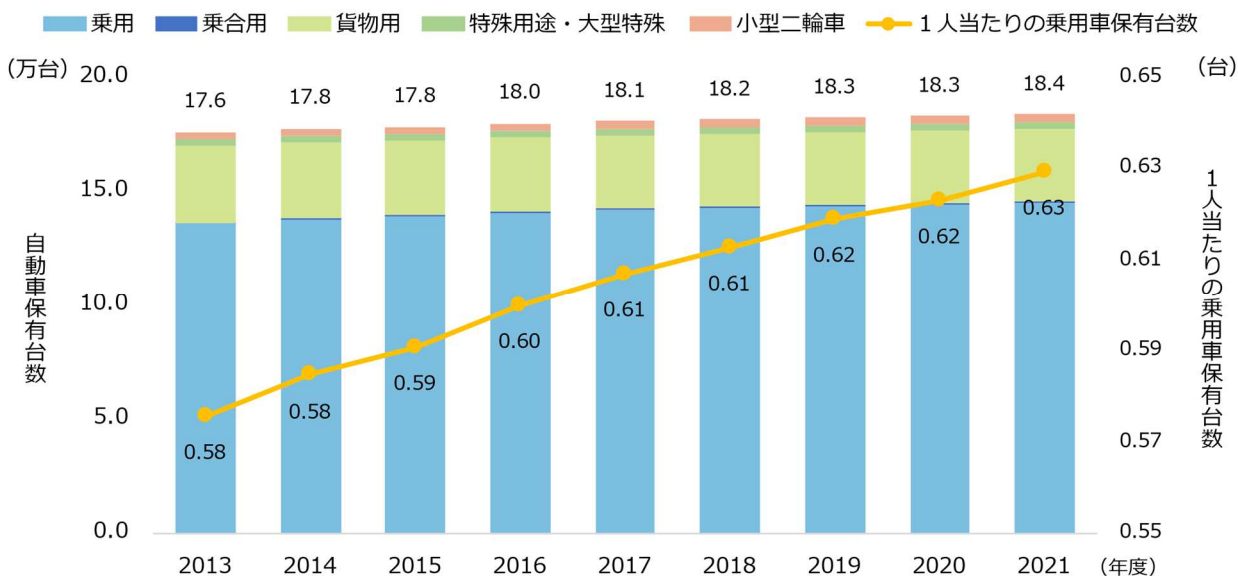
資料：佐賀市「令和5年版佐賀市統計データ」を基に作成

## (6) 交通

本市の自動車保有台数は、わずかずつ増加している状況であり、2021年度（令和3年度）の保有台数は18.4万台、人口1人当たりの乗用車保有台数0.63台となっています。

人口1人当たりの乗用車保有台数は、2013年度（平成25年度）以降増加傾向にあり、自動車に大きく依存しているといえます。

### ■ 種類別自動車保有台数の推移

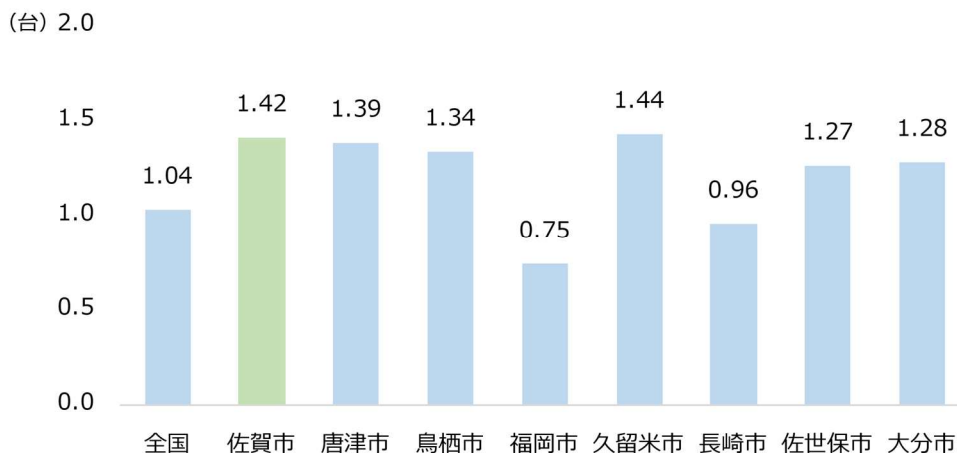


資料：佐賀県「統計年鑑」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」を基に作成  
 ※自動車保有台数は、各年度末時点の値

都道府県別の乗用車保有台数をみると、佐賀県の1世帯当たりの乗用車保有台数は全国で12番目に多くなっています。

また、本市も同様に1世帯当たりの乗用車保有台数が多く、乗用車の脱炭素化は大きな課題です。今後、移動手段を確保できない市民（高齢者等）の増加が見込まれます。

### ■ 2021年度（令和3年度）における1世帯当たりの乗用車保有台数（台/世帯）



資料：一般財団法人自動車検査登録情報協会「自動車保有台数」及び各市が公表している自動車保有台数、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」のデータを基に作成

## 2. 脱炭素社会の実現

### (1) 「ゼロカーボンシティさがし」の表明

本市では、2020年(令和2年)10月に「ゼロカーボンシティさがし」を表明し、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする目標を掲げました。

目標達成に向け、これまで取り組んできたごみ減量や資源の有効活用、再生可能エネルギーの普及などの環境配慮の取組をさらに発展させ、市民や事業者等と一体となって脱炭素社会の実現に向けた取組を進めます。



ゼロカーボンシティさがしキャラクター  
「このん」

### ■ 温室効果ガス排出量の削減目標

2030年度目標 (中期目標)	<b>温室効果ガス排出量</b> 2013年度比 <b>53%削減</b> ※
2034年度目標 (計画目標)	<b>温室効果ガス排出量</b> 2013年度比 <b>60%削減</b> ※
2050年度目標 (長期目標)	<b>温室効果ガス排出量</b> 実質 <b>ゼロ</b> (「ゼロカーボンシティさがし」の実現)

※統計データの更新に伴い数値が変更になる可能性があります。

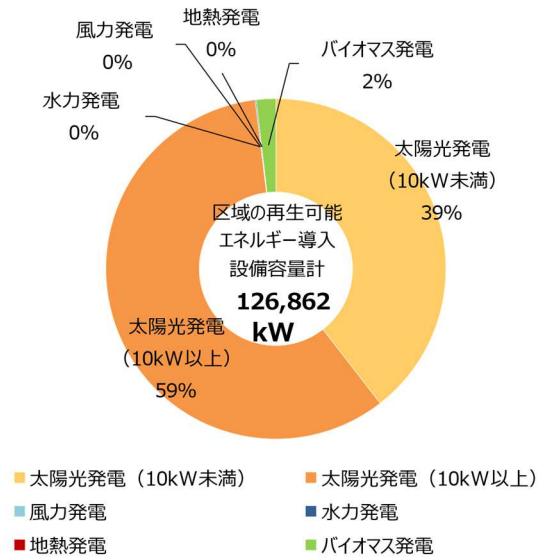
### (2) 「ゼロカーボンシティさがし推進パートナー制度」の創設・運用

「ゼロカーボンシティさがし」の実現のためには、行政や市民、事業者等が一体となって、それぞれの立場でできることから行動を始めることが必要です。そこで本市では、脱炭素に向けた取組を実施する事業者または団体を本市のパートナーとして認定する「ゼロカーボンシティさがし推進パートナー制度」を実施しています。

### (3) 再生可能エネルギーの導入

本市は中南部に広い平野を有し、日照時間等の自然条件に恵まれていることから、特に太陽光発電\*設備の導入が進んでいます。環境省の「自治体排出量カルテ」によると、本市域には、2022年度（令和4年度）時点において126,862kWの再生可能エネルギー設備が導入されています。このうち太陽光発電設備は、124,389 kWで全体の約98%を占めています。今後、さらなる再生可能エネルギーの導入と自家消費促進、蓄電池の普及を推進していく必要があります。

■ 佐賀市の再生可能エネルギーの導入設備容量（令和4年度）



資料：環境省「自治体排出量カルテ」

### 〈市有施設の主な再生可能エネルギー設備〉

#### 佐賀市清掃工場

廃棄物発電\* 4,500kW  
小水力発電\* 17.7kW



佐賀市清掃工場

#### 洞鳴の滝ふれあい館

小水力発電 2.8kW  
太陽光発電 4.4kW



小水力発電機（プロペラ水車）

#### 佐賀市下水浄化センター

消化ガス発電\* 600kW



消化ガス発電システム

その他の太陽光

市立小中学校（11kW×2校）、市立小中学校（10校、屋根貸しによる民間整備）  
市立公民館（約10kW×14館）

#### ひがさす

消費電力削減量 13,592.4kWh  
空調の電力消費量を約50%削減\*



地中熱交換器

※空冷ヒートポンプチャラーと比較した場合



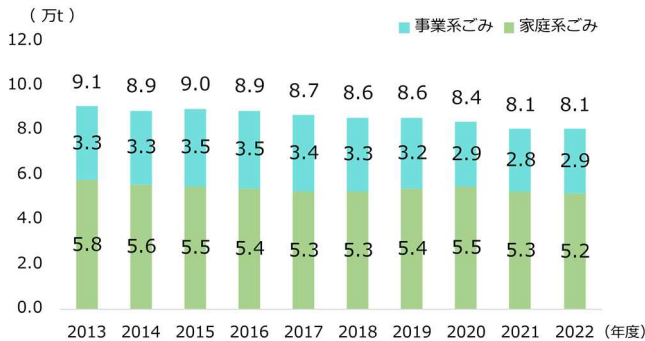
### 3. 循環型社会\*の実現

#### (1) ごみの状況

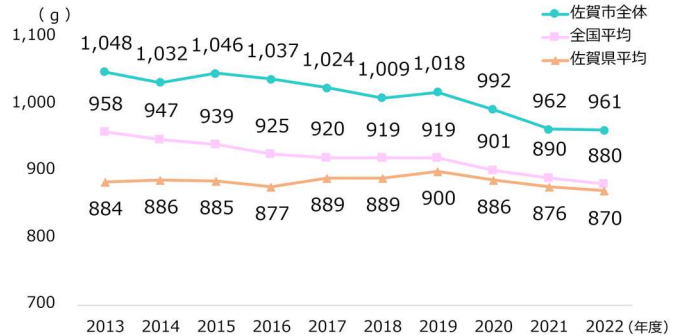
本市のごみ総排出量は2013年度(平成25年度)以降、増減を繰り返しながら減少傾向にあります。

また、1人1日当たりのごみ排出量は、減少傾向にありますが、全国平均や佐賀県平均を上回っているため、さらなるごみの削減が必要です。

■ 佐賀市のごみ総排出量の推移



■ 1人1日当たりのごみ排出量の推移

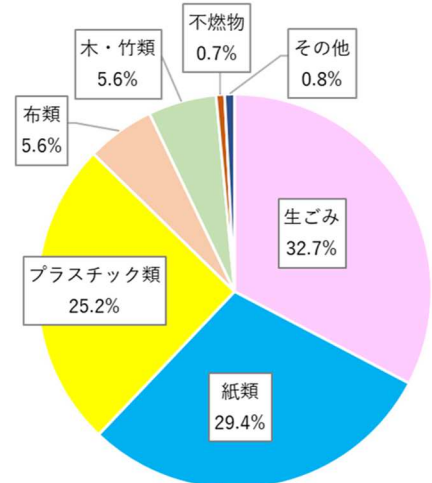


資料：環境省「一般廃棄物処理実態調査結果」

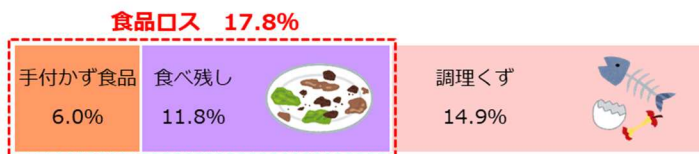
2024年(令和6年)6月に実施した家庭系燃えるごみの組成調査では、調理くずや食べ残し、手付かず食品などの生ごみ(32.7%)の構成割合が最も多く、次いで紙類(29.4%)、プラスチック類、ゴム、皮革類(25.2%)の割合が多くなっています。

詳細をみると、手付かず食品や食べ残しなどの食品ロス、容器包装プラスチックやプラスチック製品が多く見受けられたことから、これらを削減し、資源化することが必要です。

■ 家庭系燃えるごみ組成調査結果【重量割合】(2024年6月)

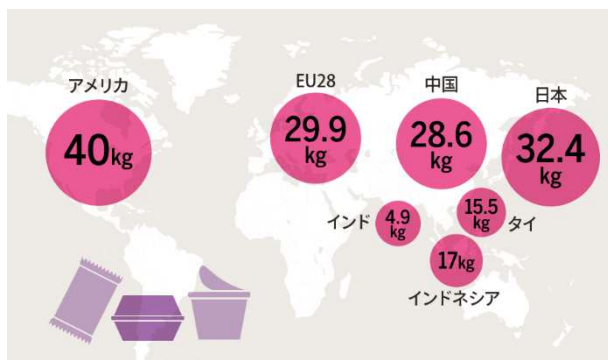


■ 生ごみ(32.7%)の内訳



※手付かず食品…賞味期限切れ等により使用・提供されず、手つかずのまま廃棄されたもの(直接廃棄)  
食べ残し…食卓にのぼった食品で、食べ切れずに廃棄されたもの

#### 〈日本人のプラごみ廃棄量は世界2位〉



日本のプラスチック包装材の1人あたり廃棄物発生量は年間32.4kg(2014年)で、米国に次いで世界第2位で、アジアでは最大の排出国です。

プラスチック廃棄物の発生を抑制するためには、行政、企業、消費者すべてのステークホルダーがそれぞれ生産と消費の両側面で責任を持つことが求められます。

資料：公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)「PLASTIC ATLAS アジア版 2022」

年間一人当たりのプラスチック包装材の廃棄物発生量

## (2) 3R(リデュース・リユース・リサイクル)の取組

本市では、ごみの減量化を目指した 3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進しています。  
主な取組は次のとおりです。



資料：政府広報オンライン

### リデュース (Reduce)

#### ● フードドライブ\*の取組

家庭で余っている食品を学校や職場、イベント等に持ち寄り、地域の福祉施設やこども食堂などに寄与する運動のことです。本市では、フードバンク\*活動団体「フードバンクさが」などが活動しています。

#### ● 「SAGA タベスケ」

食品ロス削減を目的とし、佐賀市内のお店(協力店)と住民をつなぐ、フードシェアリングサービス\*です。



#### ● 佐賀市もったいないプロジェクト

食品ロスゼロ推進店の登録や3010運動\*<sup>さんまるいちまる</sup>(宴会や会食で最初の30分間と終わりの10分間は席で食事をするよう呼びかける)等を推進しています。

#### ● 生ごみの堆肥化\*促進

NPO 法人による生ごみ減量の講座の実施や家庭用生ごみ処理容器\*等の購入費補助を行っています。



### リユース (Reuse)

#### ● エコマーケット(フリーマーケット)等のイベント開催

#### ● リユース食器の貸し出し

エコプラザ\*では、イベント時等、繰り返し使える食器を無料で貸し出しています。

#### ● リサイクル工場でのピックアップリユース(陶器類や家具等の選別)

清掃工場に持ち込まれた廃棄物から使用可能な陶器類や家具等を選別することで、リユースを促進しています。



エコマーケット

### リサイクル (Recycle)

#### ● 使用済み天ぷら油(廃食用油)のリサイクル

生まれ変わったバイオディーゼル燃料\*は市営バス等の燃料として使用されています。

#### ● 紙袋を利用した紙ごみリサイクル

資源として活用できる名刺サイズ以上の紙やお菓子の箱など、紙袋に入れて紙・布類の回収日に出すことができます。

#### ● 資源物回収奨励金

資源物の回収運動を自主的に行っている団体に奨励金を交付しています。

#### ● 剪定枝のチップ化

清掃工場に持ち込まれた剪定枝の一部をチップ化し、無料で配布しています。

#### ● 下水汚泥の肥料化

脱水汚泥を原料として肥料の製造を行い、地域住民や農家の皆さんに利用していただいています。



バイオディーゼル燃料を使用した市営バス

#### 4. 自然共生社会\*の実現

本市には、森林と里地里山、嘉瀬川がつなぐ山と川と海の水循環、川と農業用水路(クリーク)と水田が結ばれた、豊かな自然には豊かな生態系が存在し、有明海固有の生きものや良好な水辺環境のシンボルと言われ市内には多く残されています。

##### ■ 脊振・天山山系の生きもの

本市の北部は脊振・天山山系に囲まれた山林地帯となっています。自然林(ブナ林)や良好な二次林が残されている地域であり、多様な希少種が生息しています。



ミヤマアカネ



ニホンアカガエル

##### ■ 佐賀平野・農業用水路(クリーク)等の生きもの

佐賀市を中心に、県南部から東部にかけて広大な佐賀平野が広がっており、農業用水路(クリーク)が縦横に発達する独特の水利用システムが形成された地域となっています。また、淡水魚、トンボ、植物などの多様な希少種が生息しています。



カササギ



ベニイトンボ



ニッポンバラタナゴ



(上) ヒシモドキと (下) オニバス



資料: Esri, Maxar, GeoEye, Earthstar Geographics, CNES/Airbus DS, USDA, USGS, AeroGRID, IGN,

びついた水辺環境、有明海の広大な干潟などの豊かな自然があります。  
れるトンボ、その他レッドリストに掲載された希少な動植物や天然記念物など、保全すべき自然環境が

### ■「トンボ王国・さが」づくりの取組

本市では、水辺の豊かな自然環境のシンボルとして「トンボ」を掲げ、「トンボ王国・さが」づくりに取り組んできました。トンボは、身近な水環境を生息域として多くの種が見られましたが、近年の水辺環境の変化によって、その多くが身の回りから姿を消し、中には絶滅危惧種に指定されているものもあります。トンボが飛び交う多様な自然環境を守るために、私たちにできることを考えていく必要があります。本市では、次のような活動に取り組んでいます。

#### ●トンボ写真コンクール

トンボの写真撮影を通して自然に親しみ、「トンボ王国さが」を広く知ってもらうため写真コンクールを実施。

#### ●自然観察会「さかの生きものさがし」

「トンボ」のほか、市内のクリークや水路に生息する「淡水魚」など各回でテーマを定め、生きものや自然を身近に感じ、大切に作る心を育てる自然観察会を開催。

#### ●ミヤマアカネ保全活動

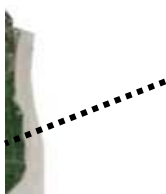
佐賀県の絶滅危惧Ⅰ類種で、県内では富士町の一部にしか生息していないミヤマアカネの生息環境を児童、NPO 法人と共に整備。



### ■有明海沿岸の生きもの

本市の南部は有明海に接し、日本最大級の干潟が広がっています。ムツゴロウやワラスボ、シオマネキなど、泥干潟特有のユニークな生きものが多く生息しています。

東よか干潟は、渡り鳥であるシギ・チドリ類の渡来数が日本一を誇り、絶滅危惧種を含む水鳥類の国内有数の中継地・越冬地となっています。また、絶滅が危惧されている塩生植物シチメンソウの国内最大の群生地でもあります。



シオマネキ



ワラスボ



ムツゴロウ



クロツラヘラサギ



シチメンソウ



コアジサシ

## 5. 良好な生活環境の実現

本市では、市民の健康を守り、かつ快適な生活環境を確保するために、大気、水質、騒音、振動の測定調査を継続的に実施し、その結果を市民へ情報提供する等、生活環境の現況把握や対策の実施、公害\*の発生・拡大防止に取り組んでいます。

### (1) 水質の状況

市内の河川や海域、地下水等において、環境基準項目等の水質調査を行っています。そのうち、本市の環境基準点におけるBOD\*/COD\*の値は、2023年度(令和5年度)の調査では12地点中11地点で環境基準値を満たしています。

#### ●測定地点数(2023年度(令和5年度))

河川	湖沼	海域	地下水	計
100	4	6	25	135

#### ●環境基準点における河川のBOD、湖沼・海域のCOD(75%値)

	BOD値 【mg/L】 (75%)	COD値 【mg/L】 (75%)	類型	環境基準 【mg/L】	水系
佐賀江大橋	1.4	—	B	3以下	筑後川
修理田橋	1.1	—	C	5以下	筑後川
新郷橋	0.7	—	B	3以下	嘉瀬川
神野上水取水口	<0.5	—	A	2以下	嘉瀬川
堂地橋	1.4	—	B	3以下	筑後川
中島橋	1.9	—	C	5以下	嘉瀬川
念仏橋	0.9	—	A	2以下	筑後川
本庄江橋	1.9	—	C	5以下	嘉瀬川
北山ダム ダムサイト	—	4.0	A	3以下	湖沼・クリーク
有明海 B-3	—	2.2	B	3以下	海域
有明海 B-4	—	2.1	B	3以下	海域
有明海 B-5	—	1.6	B	3以下	海域

### (2) 公害関係の苦情

近年の公害関係の苦情は、いわゆる典型7公害(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭)の関係規制法令では対応できない、日常生活に起因する感覚的、心理的な苦情が増加しており、内容も複雑、多様化しています。2023年度(令和5年度)は、120件の苦情が寄せられています。

#### ●公害苦情件数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
公害苦情件数(件)	172	188	141	167	120

## 2 第2次環境基本計画の評価

「第2次佐賀市環境基本計画(平成27年10月)」では、基本目標ごとに施策の進捗を示す成果指標及び数値目標を設定していました。2023年度(令和5年度)時点での数値目標の達成状況は以下のとおりです。

### ■ 第2次佐賀市環境基本計画における数値目標の達成状況

#### 基本目標1 地球温暖化を防止するまち

成果指標	基準値		実績値 2023	目標値 2024	結果	評価
	2013	2019				
省エネ等の環境問題を把握し、取り組んでいる市民の割合	78.8%	—	74.3%	85.0%	未達成	環境問題への意識が高まっていない可能性もあるが、環境への取組が当たり前になっており、結果に反映されていないことも考えられます。
温室効果ガス排出削減率(2013年度比)	—	12.2%	41.0%	17.9%	達成	省エネ性能の高い設備の普及拡大、電気の排出係数*の低減等により、温室効果ガスの排出削減が進んだと推察されます。 脱炭素に向けては、太陽光発電・蓄電池及びEV*の導入等、本市の排出構造を踏まえたさらなる排出削減対策の実施が不可欠です。

#### 基本目標2 資源を活かす循環のまち

成果指標	基準値		実績値 2023	目標値 2024	結果	評価
	2013	2019				
1人1日当たりのごみ排出量	1,048 g	—	936 g	964 g	達成	ごみ排出量は減少傾向にあるものの、全国や佐賀県平均(2022年度実績値)と比較すると1人1日当たりのごみの排出量は、まだ多い状況にあり、さらなる排出削減が必要な状況です。
リサイクル率	17.4%	—	20.9%	20.5%	達成	佐賀市エコプラザでの3Rに関する講座の開催、SNSを活用した情報発信等の活動成果により、リサイクル意識が向上していると推測されます。また、佐賀市リサイクル工場での徹底した資源物選別を進めるとともに、民間リサイクル業の積極的な活用に努めています。

基本目標 3 水とみどりあふれるまち

成果指標	基準値		実績値	目標値	結果	評価
	2013	2019	2023	2024		
市街地のみどりが増えて景観が良くなったと感じる市民の割合	－	57.7%	55.7%	60.2%	未達成	緑化拡大に関しては、今あるみどりを育て、活かすことに力をいれていますが、目標には届きませんでした。景観にはみどり以外の要素も影響するため、緑化拡大の成果が反映されていないことも考えられます。
市民一人当たりの都市公園面積	7.2 m <sup>2</sup>	－	8.1 m <sup>2</sup>	8.3 m <sup>2</sup>	未達成	都市計画区域内において、公園整備が可能な規模の用地を確保することが難しい状況にあることや、都市公園以外の公園の整備を進めたことが、目標未達成の要因として挙げられます。
屋外広告物*許可割合	26.9%	－	86.8%	100%	未達成	屋外広告物許可申請の未申請者に対し、許可申請の手続きを促していますが、許可率は鈍化傾向にあります。

基本目標 4 安全で快適な生活環境のまち

成果指標	基準値		実績値	目標値	結果	評価
	2013	2019	2023	2024		
公害苦情件数(騒音・振動・悪臭等)	－	172 件	120 件	130 件	達成	事業者等に対して関係法令に基づく公害・環境関連遵守事項についての指導を行っており、その効果が表れてきたことにより、公害苦情件数が減少していると推測されます。
生活環境苦情件数	－	347 件	577 件	300 件	未達成	近隣住民間あるいは市民と事業者間のトラブル等について、当事者間での対話への誘導、原因者への指導、環境阻害要因の除去等の対応を行っていますが、近年のアイグマや空き家に関する相談件数の増加等が影響し、目標未達成の状況です。
鉛給水管更新率	45.0%	－	93.9%	100%	未達成	鉛給水管*の取替工事を進めていますが、給水管所有者の同意が得られず、着工できない箇所が存在するなどの要因から、目標未達成となりました。引き続き、所有者からの申し出があれば随時更新していきます。
下水道接続率	87.3%	－	93.2%	93.4%	未達成	下水道未接続者に対する接続促進活動を実施した結果、接続率は毎年度拡大していますが、目標未達成となりました。

### 3 市民・事業者の環境に関する意識と行動

本計画の策定に当たり、市民、小学生及び事業者の皆様の環境に関するニーズ等を把握し、計画に反映させていただくことを目的として、アンケート調査を実施しました。

※アンケート結果の詳細は、資料編に掲載しています。

#### 〈市民アンケート〉 佐賀市の好きな風景・場所ランキング

佐賀市の好きな風景・場所を自由に回答いただきました。回答結果のうち、出現頻度の高いキーワードを分析しました。

- 1位 🍷 多布施川
- 2位 🍷 神野公園
- 3位 🍷 田園



多布施川河畔

資料：佐賀市シティプロモーション室

※出現回数が多いほど、文字の大きさが大きい



#### 〈親子アンケート〉

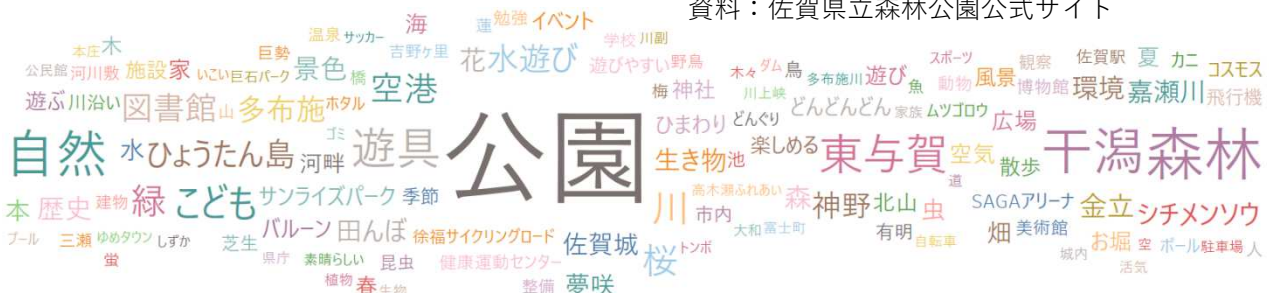
- 1位 🍷 森林公園
- 2位 🍷 東よか干潟（公園含む）
- 3位 🍷 佐賀空港（公園含む）



佐賀県立森林公園

資料：佐賀県立森林公園公式サイト

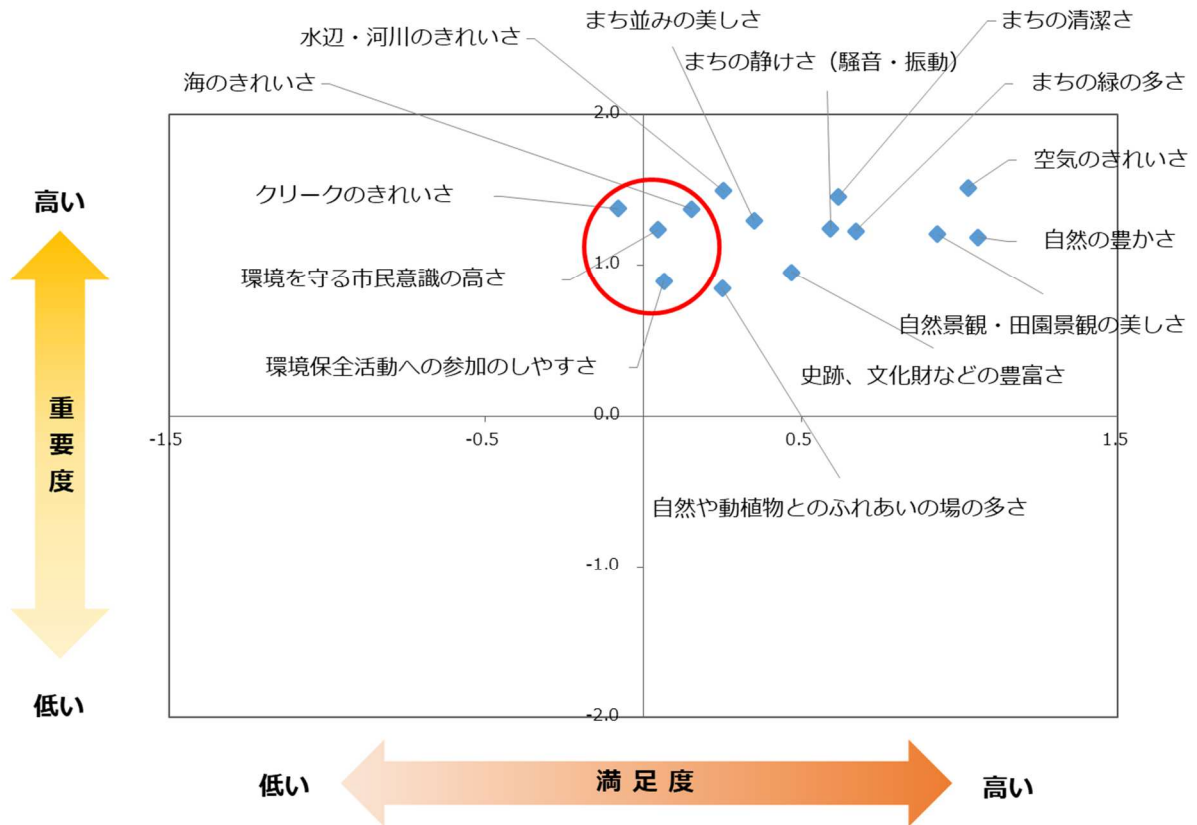
※出現回数が多いほど、文字の大きさが大きい



# 1. 佐賀市の環境に関する満足度と重要度

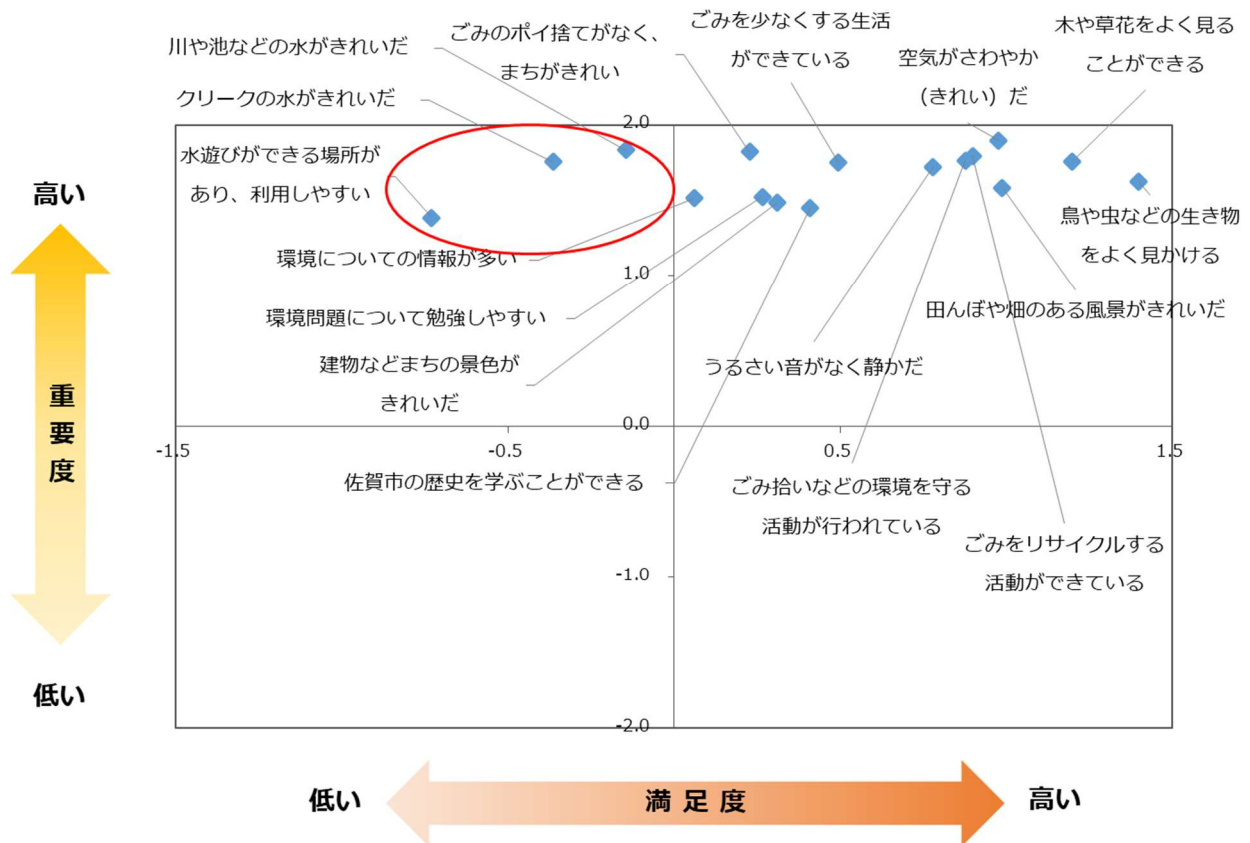
## (1) 市民アンケート(18才以上)の回答結果

- ✓ 満足度の1位に「自然の豊かさ」、最下位に「クリークのきれいさ」が挙げられました。
- ✓ 重要度の1位に「空気のきれいさ」、最下位に「自然や動植物とのふれあいの場の多さ」が挙げられました。
- ✓ 「クリークのきれいさ」、「環境を守る市民意識の高さ」、「環境保全活動への参加のしやすさ」、「海のきれいさ」のような「重要度が高く満足度が低い」項目は、より効果的な施策の展開に向けて改善を図っていくことが求められます。



## (2) 親子アンケート(小学生・親)の回答結果

- ✓ 満足度の1位に「鳥や虫などの生きものをよく見かける」、最下位に「水遊びができる場所があり、利用しやすい」が挙げられました。
- ✓ 重要度の1位に「空気がさわやか(きれい)だ」、最下位に「水遊びができる場所があり、利用しやすい」が挙げられました。
- ✓ 「水遊びができる場所があり、利用しやすい」、「クリークの水がきれいだ」、「川や池などの水がきれいだ」のような「重要度が高く満足度が低い」項目は、より効果的な施策の展開に向けて改善を図っていくことが求められます。



## 2. 親子で参加したい環境学習やイベント(親子アンケートの回答結果)

- No.1 水辺の散策や魚とり大会
- No.2 地域の食材を使ったエコ・クッキング
- No.3 自然の木や木の実を使った工作教室  
自然について学ぶキャンプ

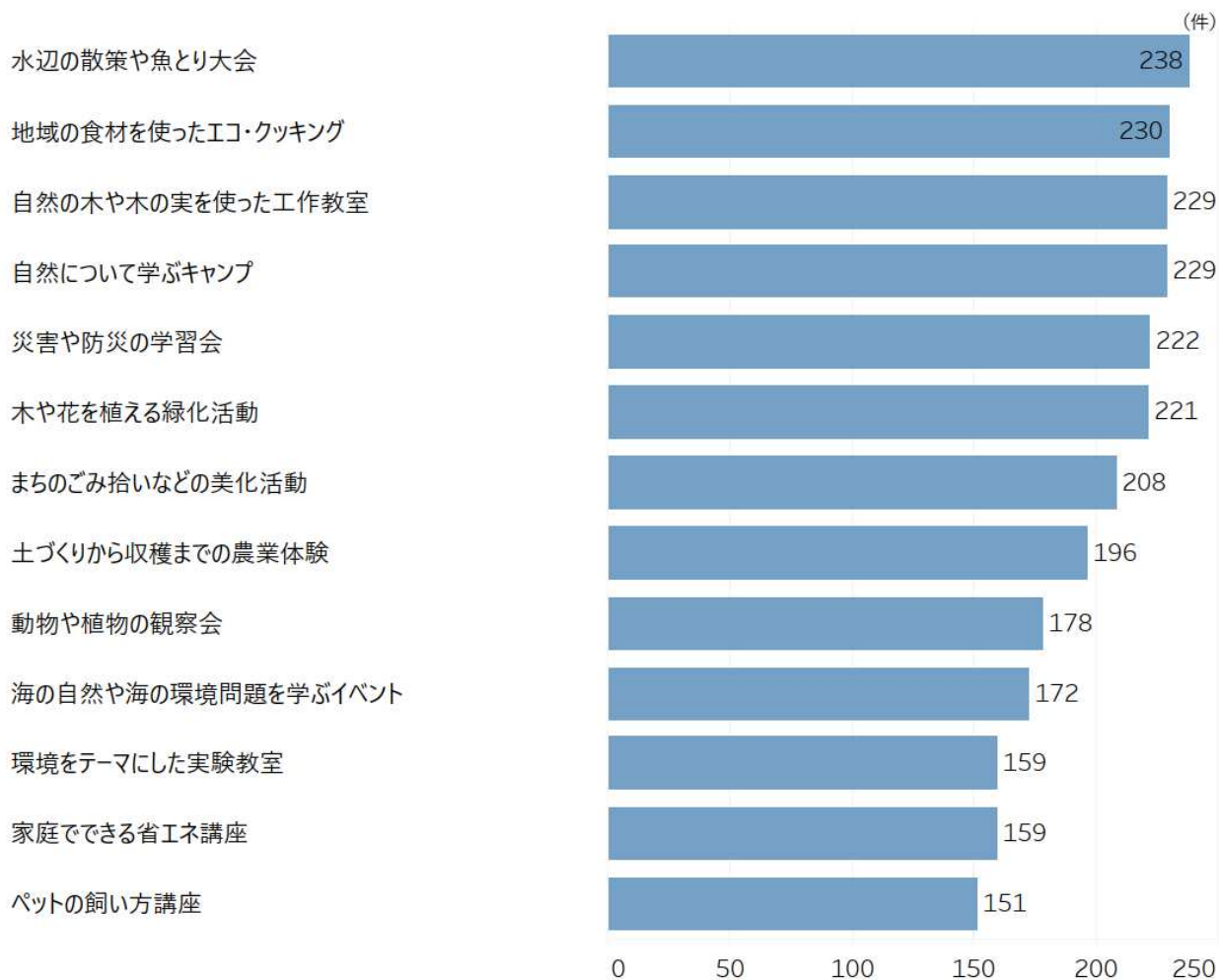
✓ 親子で参加したい環境学習やイベントでは、「水辺の散策や魚とり大会」や「地域の食材を使ったエコ・クッキング」などの実際に体験できるイベントが上位を占めています。



器リメイク☆風鈴づくり  
資料：佐賀市エコプラザ



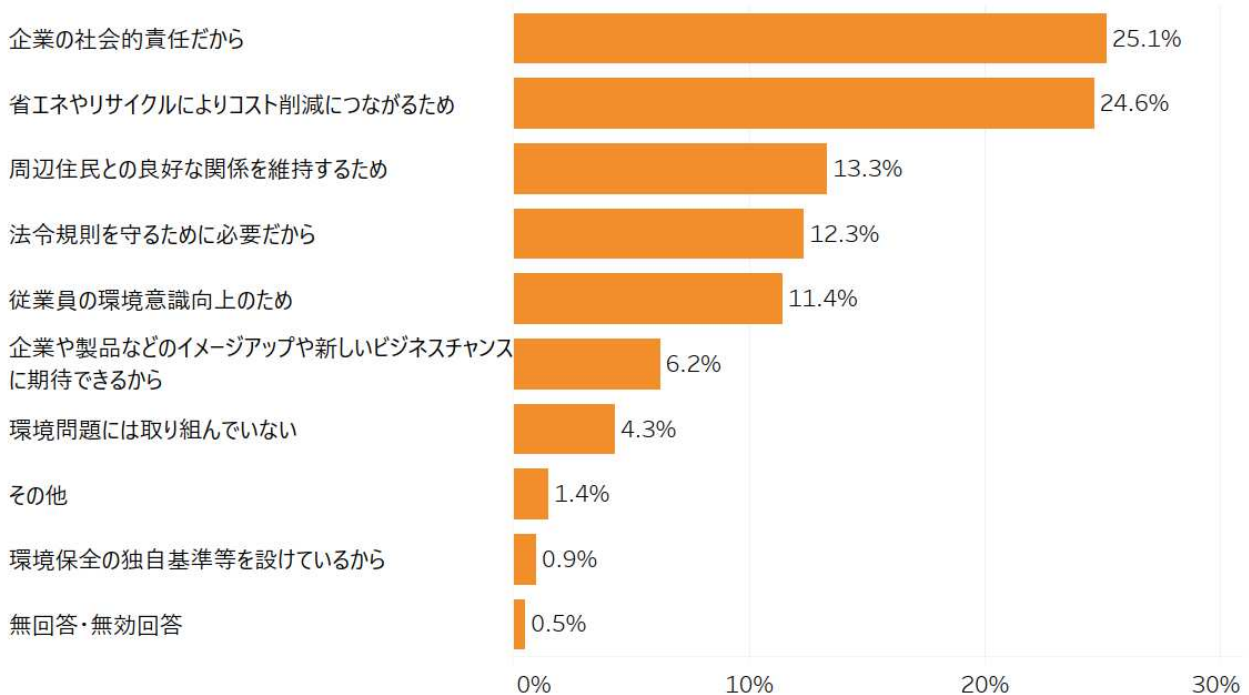
マイクロプラスチック万華鏡づくり  
資料：令和6年度佐賀市環境報告書



### 3. 事業活動と環境保全（事業者アンケートの回答結果）

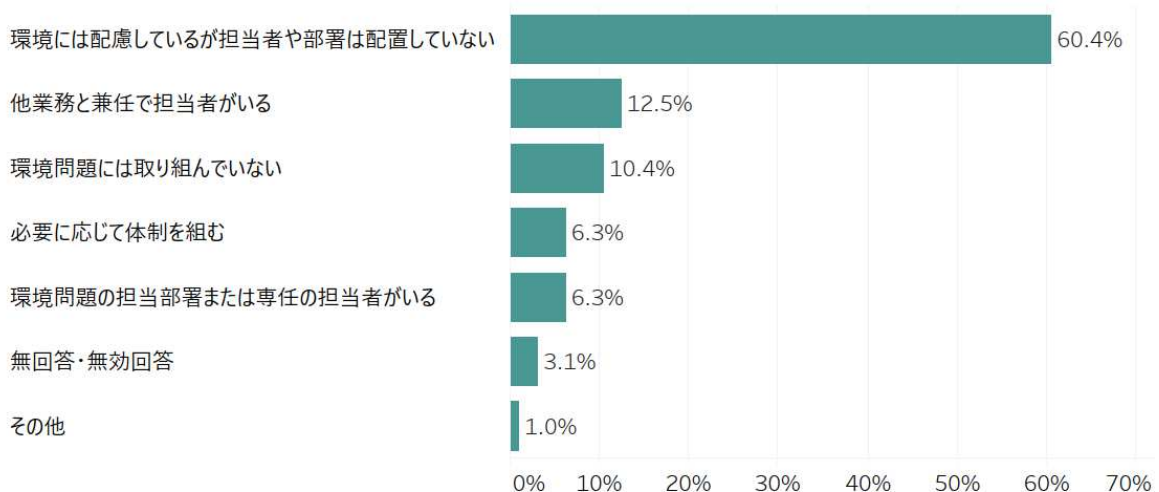
#### (1) 環境問題に取り組んでいる理由

- ✓ 事業所が環境問題に取り組んでいる理由は、「企業の社会的責任だから」が 25.1%で最も多く、次いで「省エネやリサイクルによりコスト削減につながるため」が 24.6%となっています。
- ✓ 「企業や製品などのイメージアップや新しいビジネスチャンスに期待できるから」が 6.2%となり、企業に対して環境問題に取り組むメリットの周知が求められます。



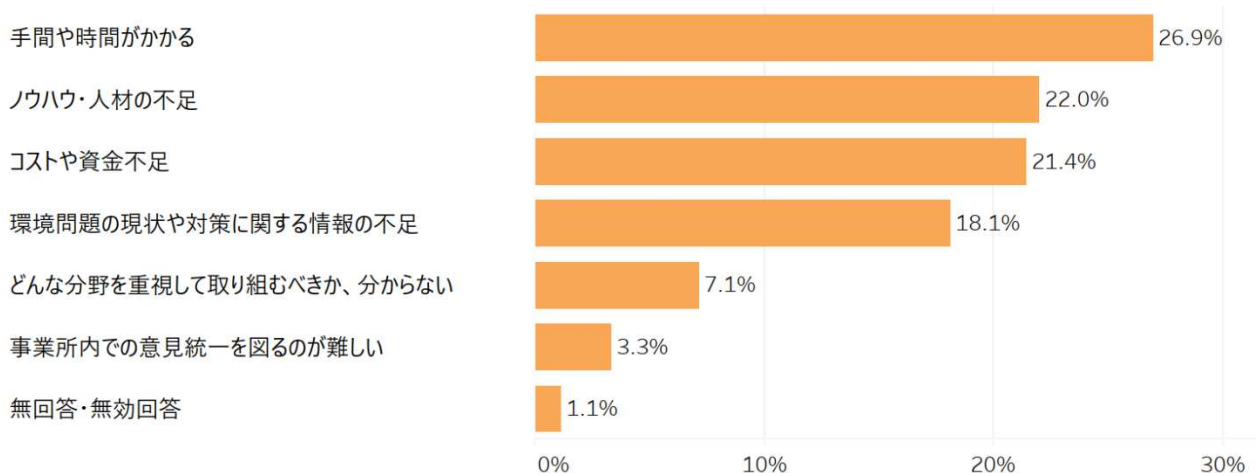
#### (2) 環境問題に取り組む体制

- ✓ 環境問題に取り組む体制は、「環境には配慮しているが担当者や部署は配置していない」が 60.4%で最も多くなっています。
- ✓ 環境問題に取り組む体制が十分でない事業所が多いことを前提に、情報提供や支援を検討する必要があります。



### (3) 環境問題への取組を進める上での課題

- ✓ 事業所が環境問題に取り組む上での課題として、「手間や時間がかかる」、「ノウハウ・人材の不足」、「コストや資金不足」が上位にあがっています。



### (4) 環境配慮のための取組活動において希望する支援

- ✓ 環境配慮のための取組活動において希望する支援は、「省エネルギー・再生可能エネルギーの設備導入に対する助成制度」が 38.8%で最も多く、次いで「環境配慮活動に関する情報提供、情報交換の場づくりの支援」が 19.7%、「環境教育\*、学習するためのセミナー、研修会の開催」が 19.1%となっています。
- ✓ 環境に配慮した事業活動を促進するために、環境配慮活動に関する情報提供やセミナーの開催等のさらなる支援を検討する必要があります。

